



こんにちは  
日本共産党  
市議会議員

# 辻おさむ

## です

### 市政レポート

2012年7月22日 No.188 発行/辻修 尼崎市大庄西町2-22-5 Tel.6417-7424  
ホームページ <http://www.poporo.ne.jp/~o-tuji/>

# 原発なくせ 7月16日

## 東京・代々木公園に17万人



猛暑となった16日の東京・代々木公園。ノーベル賞作家の大江健三郎さんから9人が呼びかけた「さようなら原発10万人集会」が開かれました。

参加者の手には、「再稼働反対」「福島を返せ」などと書いたプラカードやうちわ、太鼓などの鳴り物。全国の「原発いらない」の声が一堂に集まりました。

東京電力福島第1原発事故以降、「原発なくせ」という市民の声は高まるばかりです。

首相官邸前での市民の抗議行動は、週をおうごとに参加者が増加。連帯行動も広がり、再稼働を強行する野田政権を包囲しています。

# 対策先送り 危険な断層 規制機関なし 再び大事故も

## 大飯原発 再稼働の無謀

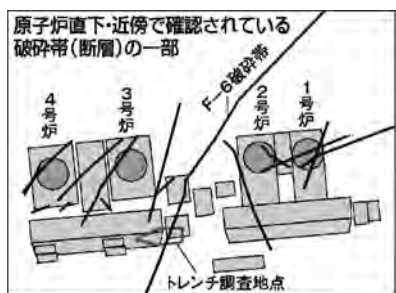
「原発なくせ」の運動が空前の規模に発展しています。原発事故の深刻な実態、被害が拡大しつづけ

る福島の実情が世論を大きく変えさせた。「原発ゼロの日本」への政治決断をの声を大きくあげるときです。



政府、関西電力は東京電力福島第1原発事故の原因の究明が終わっていないのに、大飯原発を再稼働させました。5日、公表

された国会の福島原発事故調査委員会の報告書は「重要な点において解明されていない」と、今後の実証的な検証・調査を求めています。政府は30項目の安全対策を求めたとしていますが、しかし、免震事務棟



(2016年3月までに完成)など、時間のかかる対策は先送りしても構わないという対応です。その間に重大事故につながる地震や津波が来ないという保証はありません。大飯原発がどのような地震や津波に襲われるのか。最近、全国の前で従来の活断層の評価が覆り、大飯原発周辺の複数の断層が連動した場合の揺れが、基準を上回る計算結果が出ています。さらに大飯原発敷地内に破砕帯(断層)が動く可能性を東洋大学の渡辺満久教授(変動地形学)らが指摘しています。断層が重要構造物である非常用取水路を横切っており、動けば深刻な被害をもたらすとされます。

原発をともに規制する機関がないと指摘されています。

「事故は人災」と断じた国会事故調の報告書には「規制する立場とされる立場の『逆転関係』が起きて、「原子力安全」についての監視・監督機能が崩壊していた」と結論づけました。

規制機関のあり方が抜本的に問われているのに、経済産業省原子力安全・保安院など問題を指摘された組織は今も続いています。

福島第1原発事故を踏まえた被害想定もされておらず、周辺住民の避難対策が整備される見通しも立っていません。

このような状況で再稼働を強行することは再び「人災」を繰り返すことになりかねません。

# 原発ゼロへ 政治決断のとき

## 福島第1原発 最悪の事故

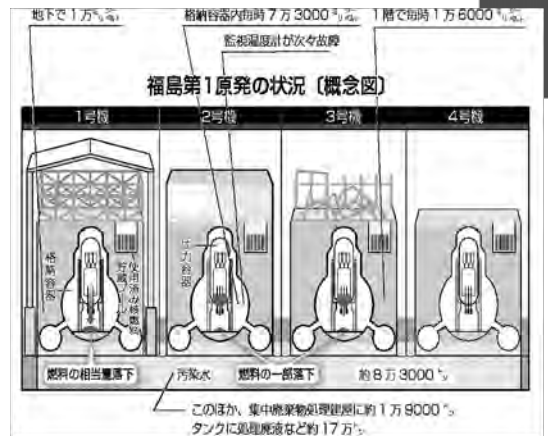


減らない

高放射能汚染水

東京電力福島第1原発は昨年3月11日の地震と津波で、運転中だった1〜3号機が全電源喪失から炉心溶融に至り、放射線物質を大量に外部へ

## 炉内いまだ不明



放出するという史上最悪の原発事故を引き起こしました。放射性物質の放出は今も続いています。

1、3、4号機では原子炉建屋内に水素が充満して爆発し、折れ曲がった鉄骨やコンクリートのがれきがむき出しとなりました。

溶けた燃料が原子炉格

納容器内に落下した1〜3号機では、壊れた原子炉格納容器から燃料を冷やすために原子炉圧力容器へ注ぎ込んでいる水が原子炉建屋やタービン建屋の地下へ漏れ出しています。原子炉建屋内は人が立ち人れないほど猛烈な放射線量が計測される状況が続いており、30〜40年後をめどとしている廃炉作業の見通しは不透明です。

漏れ出した高濃度放射能汚染水の処理も深刻な状況です。東電は汚染水を海へ流出させる事故を起こした後、昨年6月から汚染水から放射性物質などの一部を除去して再び圧力容器に注水する循環注水冷却を行っています。ですが、装置からの汚染水漏れが頻発、地下水の流入が続いていることもあって汚染水の量は一向に減っていません。処理後の廃液などを貯蔵しているタンクは福島第1原発構内を埋め尽くしています。

温度計の故障が相次ぎ、原子炉内の状況はますます分かりにくくなっています。1〜4号機の原子炉建屋には大量の使用済み核燃料が入ったプールがあり、今後の地震などによる影響が心配されています。

## 尼崎市議会が

### 大飯原発再稼働反対の意見書を採択

6月議会最終日、「大飯原子力発電所3、4号機の再稼働反対に関する陳情」が採択されたのに伴い、意見書が採択されました。

6月14日の経済環境市民委員会では、新国会が「採択しても、国が再稼働を決めてしまうのではないか」と、採決をしない意見でした。

そこで私は、「国民はそんなに納得できるものではない」「市議会として再稼働反対の意思表示をすることが大事だ」と採決を主張しました。

また、市民グリーンクラブの委員は、「陳情者の意図は、何が何でも再稼働反対か」と質問。

私は、「将来の原発の

あり方については、いろいろな意見があっても、安全対策も十分とられていないし、規制機関もないなかで、いま動かすことについては反対で一致するのではないかと採決を求めました。

採決の結果、賛成多数で採択されました。

#### 採決の結果

##### 賛成 (28人)

日本共産党、公明党、  
緑のかけはし、  
市民グリーンクラブ (4人)

##### 反対 (13人)

新国会、市民グリーンクラブ (3人)

## 大飯原子力発電所3、4号機の再稼働反対に関する意見書

大飯原子力発電所3、4号機の再稼働のための暫定基準が即席で作られ、専門家で構成された原子力安全委員会の承認もない中で、政府は再稼働を急いでいます。

暫定基準や再稼働の条件として実施されたストレステストの内容は、東日本大震災の津波や揺れの記録を大きく下回るものとなっており、現在、大飯原子力発電所においては、非常用発電機は確保されているものの、防波堤のかさ上げや水素爆発対策は取られておらず、免震事務棟やフィルター付きベント設備は、数年先の設置となっております。

さらに、国会に設置された事故調査委員会による福島原子力発電所事故の実態・原因の究明が不十分であるなど、地震に対する安全対策が十分に取られたとは言えない状況であるにもかかわらず、原子力発電所を再稼働することは極めて危険であり、周辺住民の命を軽視するものと言わざるを得ません。

もし福井県内の原子力発電所で原子力災害が発生すれば、その影響は、周辺地域の住民避難や放射能汚染にとどまらず、近畿約1,450万人の命の水源である琵琶湖を汚染させる恐れがあります。

よって、政府におかれては、地震に対する安全対策が不十分であることから、大飯原子力発電所3号機、4号機を再稼働しないよう、強く要望いたします。

平成24年6月26日

尼崎市議会議長